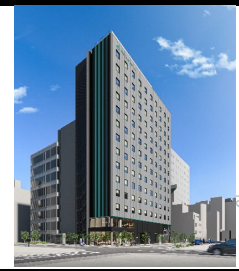


# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福岡博多駅前ホテル計画新築	階数	地上14F
建設地	福岡県福岡市博多区博多駅前三丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	280人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2022年6月7日
敷地面積	822㎡	作成者	清水建設株式会社九州支店
建築面積	390㎡	確認日	2022年6月8日
延床面積	5,218㎡	確認者	清水建設株式会社九州支店



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 2  
LR1 エネルギー: 4  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>室内環境、サービス性能への配慮。</li> <li>敷地内外環境への配慮。</li> <li>エネルギー、資源マテリアルの確保に努めている。</li> </ul>	0
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>遮音性能への配慮。</li> <li>昼光率への配慮。</li> <li>十分な換気性能を確保している。</li> </ul>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>緑地、中高木を設置している。</li> </ul>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>BPI<sub>m</sub>=0.89</li> <li>BEI<sub>m</sub>=0.67</li> </ul>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生水利用有</li> <li>リサイクル材を多用している。</li> <li>OAフロアの採用等、解体時のリサイクルに配慮。</li> <li>防水工事のプライマー採用等、科学物質の採用削減に努めている。</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される